

第1次検査 専門検査(I) 問題用紙

受検区分	教科
養護教諭	

(注 意)

- 1 検査の時間は60分です。
- 2 検査問題用紙が出願した受検区分、受検教科に合致していることを必ず確認し、異なっている場合は挙手すること。
- 3 解答用紙が専門検査(I)の用紙であることを必ず確認し、異なっている場合は挙手すること。
- 4 質問がある場合は、挙手すること。
ただし、問題の内容や答えの書き方についての質問には応じられません。
- 5 解答は、解答用紙の注意事項をよく読み、各設問の末尾に指定された解答番号のマーク欄に鉛筆(HB)で濃く、はっきりとマークすること。
- 6 正答は一問につき一つです。解答肢の「ア～エ」又は「ア～オ」から一つ選び、解答用紙のマーク欄ア～オのいずれか一つのみマークすること。
- 7 受検番号、氏名等を必ず記入すること。
- 8 解答する問題はNo.1～No.20までです。解答用紙のマーク欄はNo.1～No.20までを使用すること。

第1問 次の文は、教育振興基本計画（令和5年6月16日 閣議決定）における「I I. 今後の教育政策に関する基本的な方針」の抜粋である。空欄A、Bに当てはまる文の組合せとして、正しいものを選びなさい。

[No. 1]

（略）我が国の教育をめぐる現状・課題・展望を踏まえ、本計画では2040年以降の社会を見据えた教育政策におけるコンセプトとも言うべき総括的な基本方針として「A」及び「B」を掲げる。両者は今後我が国が目指すべき社会及び個人の在り様として重要な概念であり、これらの相互還流的な実現に向けた取組が進められるよう教育政策を講じていくことが必要である。

- ① 持続可能な社会の創り手の育成
- ② 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成
- ③ 日本社会に根差したウェルビーイングの向上
- ④ 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築

	A	B
ア	①	③
イ	①	④
ウ	②	③
エ	②	④
オ	③	④

第2問 「学校保健安全法」及び「学校保健安全法施行規則」に照らして、学校等の対応について説明したa～cの文の正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。[No. 2]

- a 学校においては、児童生徒等の心身の健康に関し、健康相談を行うものとし、学校医だけではなく、学校歯科医や学校薬剤師も健康相談に従事することとなっている。
- b 児童生徒等の健康診断票は5年間保存しなければならない。ただし、進学した場合に送付された健康診断票については、当該児童生徒が進学前の学校を卒業した日から3年間とする。
- c 学校においては、校外における学習等のために自動車を運行するときは、児童生徒等の乗車及び降車の際に、点呼その他の児童生徒等の所在を確実に把握することができる方法により、児童生徒等の所在を確認しなければならない。

	a	b	c
ア	正	正	正
イ	正	正	誤
ウ	正	誤	正
エ	誤	正	正
オ	誤	誤	誤

第3問 保健室に関して説明したa～cの文の正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。[No. 3]

- a 学校保健法の一部改正（平成20年6月）により、旧法で附則に位置付けられていた「保健室」が、学校保健安全法第7条に「学校には、健康診断、健康相談、救急処置その他の保健に関する措置を行うため、保健室を設けるものとする。」と位置付けられた。
- b 「保健室利用状況に関する調査報告書 令和4年度調査結果」（公益財団法人日本学校保健会）によると、1日平均の保健室利用者数は、全ての学校種（小・中学校及び高等学校）で前回調査より減少した。一方、養護教諭が健康相談を実施した児童生徒の割合は、前回調査より全ての学校種で増加した。
- c 保健室経営計画は、学校保健安全法第5条に、その策定等について規定されており、学校保健活動の年間を見通して、「保健教育」「保健管理」「組織活動」の3領域について計画を立て、学校経営の評価項目に位置付けて評価を実施する。

	a	b	c
ア	正	正	誤
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	誤
オ	誤	誤	正

kyosai-guild.jp

第4問 児童生徒等の健康診断について、問1～問3に答えなさい。

問1 健康診断に関する内容について説明したa～cの文の正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。

[No. 4]

- a 健康診断の必須検査項目に婦人科的診療はないが、保健調査票等に女子の月経に伴う諸症状について記入する欄を設け、月経随伴症状等の早期発見や保健指導等につなげる。
- b 診察や心電図検査等、衣服を脱いで実施するものは、全ての校種・学年で男女別に実施するなどの配慮を行う。
- c 当日の欠席や不登校など、個別の事情により健康診断を受けることができなかった児童生徒等に対しては、6月30日を過ぎても、その事由がなくなった後、速やかに健康診断を受ける機会を確保する必要がある。

	a	b	c
ア	正	正	正
イ	正	正	誤
ウ	正	誤	正
エ	誤	正	誤
オ	誤	誤	誤

問2 尿の検査に関する内容について説明したa～cの文の正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。

[No. 5]

- a 尿の潜血反応を陽性化するおそれのあるビタミンCを添加したお茶やウーロン茶、ビタミンCの含有量の多いジュースや薬剤は飲まないように指導する。
- b 就寝前に排尿し、翌朝一番の尿を少し排除してから、中間尿を10mL程度採尿する。
- c 蛋白尿は6～12時間後に陰転することがあるため、検査は採尿した当日（採尿後5時間以内）に完了することが望ましい。

	a	b	c
ア	正	正	正
イ	正	正	誤
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	正
オ	誤	誤	誤

問3 歯及び口腔の疾病及び異常の有無の検査に関する内容として、適当でないものを選びなさい。〔No. 6〕

ア むし歯や歯肉炎だけではなく、顎顔面全体のバランスを観察し、咬合（こう）の状態、開口障害、顎関節雑音、疼痛（とうつう）の有無、発音障害等についても注意する必要がある。

イ 歯周疾患要観察者（GO）は、歯肉の炎症と歯石沈着が認められる者である。

ウ 歯列・咬合の異常について通知する際には、児童生徒や保護者がその結果をよく理解し、その上で必要な専門医の相談・治療を受けることができるよう、検査結果のみでなく、検査結果の意味や関連する情報を含めて伝える。

エ むし歯、要観察歯（CO）及び歯肉炎、歯周疾患要観察者（GO）が高い頻度で見られる児童生徒等の中に、虐待を受けている者が含まれていることがある。

Kyosai-guild.jp

第5問 学校環境衛生活動について、問1、問2に答えなさい。

問1 次は、A小学校の騒音に係る学校環境衛生検査の事例である。学校環境衛生基準に照らして、下線部①～③の最も適当な正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。[No. 7]

A小学校では、学校保健計画に基づき、騒音については、5月と11月の①年2回検査を行っている。検査は、授業が行われている時間帯に、各階、騒音の影響が大きい教室等を1つ以上選び、②児童が室内にいる状態で行い、窓側と廊下側で③窓を閉じたときと開けたときの等価騒音レベルを測定している。

	①	②	③
ア	正	正	誤
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	誤
オ	誤	誤	正

問2 臨時に行う環境衛生検査に関する内容として、適当なものの組合せを選びなさい。[No. 8]

- ① 新しい机といすを導入したときは、導入後速やかにその教室等で、二酸化窒素の検査を行う。
- ② 近隣で騒音を伴う工事が行われているときは、騒音の測定を行う。
- ③ 学校行事等で多数の来校者があったときや、多量のごみが発生したときは、清潔状況等について検査を行う。
- ④ 臨時の検査を行ったときは、その結果を検査の日から3年間保存する。

ア ①② イ ①③ ウ ②③ エ ②④ オ ③④

第6問 学校における救急処置に関して説明したa～cの文の最も適当な正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。[No. 9]

- a 児童生徒等の生命に関わる緊急事案発生時は、管理職への報告よりも救命処置を優先させ迅速に対応する。
- b 養護教諭は専門性を生かして、症状等の見極めや医学的な診断を行うほか、保健指導等の適切な事後措置を行うことが求められる。
- c 重症の低血糖発作を起こした児童生徒が、自らグルカゴン点鼻粉末剤（バクスミー®）を投与できない状態であっても、教職員が本人に代わって投与することはできない。

	a	b	c
ア	正	正	誤
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	正
オ	誤	誤	正

kyosai-guild.jp

第7問 耳の構造や異常に関する内容について、問1、問2に答えなさい。

問1 次の文は、耳の構造について述べたものである。(1)、(2)に答えなさい。

耳は、外耳、中耳、内耳の3つの部分からなり、一番奥にある内耳に①と②の感覚器がある。外耳と中耳は伝音器であり、外耳から鼓膜に伝わった音の振動が、中耳にある耳小骨によって大きさを調整されて内耳まで伝えられる。中耳から耳管がのびて③に開口している。

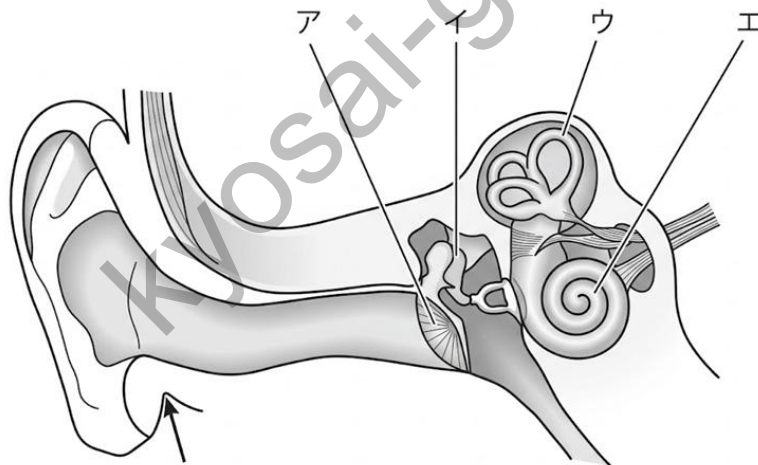
内耳は側頭骨の中に収められた複雑な構造で、蝸牛が①を、前庭と半規管が②を担当する。

①・②を生じる刺激は電気信号に変換され、それぞれ蝸牛神経と前庭神経を通過して脳幹に入り中枢まで伝えられる。

(1) 空欄①～③に当てはまる語句の組合せとして、適当なものを選びなさい。[No. 10]

- | | ① | ② | ③ |
|---|-----|-----|----|
| ア | 聴覚 | 平衡覚 | 咽頭 |
| イ | 聴覚 | 平衡覚 | 喉頭 |
| ウ | 平衡覚 | 聴覚 | 咽頭 |
| エ | 平衡覚 | 聴覚 | 喉頭 |

(2) 次の図は、耳の構造について模式的に示したものである。半規管の位置として、正しいものを選びなさい。[No. 11]



問2 難聴に関して説明したa～cの文の最も適当な正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。

[No. 12]

- a 伝音難聴は、主に内耳に障害がある場合に起こり、大部分は治療による改善が見込めないため、補聴器の装用や聴能訓練が必要となることが多い。
- b 軽・中等度難聴は、正面からの声かけには十分に応答ができ、言葉も問題なく喋っているような場合もあるが、実際には十分な音情報が入らずに何らかの支障がみられていることが多く、補聴器の活用と適切な療育が必要である。
- c 心因性難聴は、学校や家庭などでの何らかのストレスが原因であることが多く、背景にある心理的因子の解明やサポートが必要である。

	a	b	c
ア	正	正	正
イ	正	正	誤
ウ	正	誤	正
エ	誤	正	正
オ	誤	誤	誤

第8問 感染症について、問1、問2に答えなさい。

問1 学校において予防すべき感染症に関する内容として、適当なものの組合せを選びなさい。

[No. 13]

- ① 手足口病は、口腔粘膜と四肢末端に水疱（ほう）性発しんを生じる感染症である。乳幼児に好発し、一度感染すると免疫を獲得するため、再感染することはない。
- ② マイコプラズマ感染症は、咳を主症状とし、学童期以降の細菌性肺炎としては最も多い。ワクチンによる予防が可能である。
- ③ 水痘（みずぼうそう）は、紅斑、丘しん、水疱（ほう）、膿疱（のうほう）、かさぶたの順に進行する発しんが出現し、同時に各病期の発しんが混在する感染性の強い感染症である。
- ④ 溶連菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌が原因となる感染症である。適切な抗菌薬療法開始後24時間以内に他への感染力は消失する。

ア ①② イ ①③ ウ ②③ エ ②④ オ ③④

問2 出席停止の期間の基準に関する内容として、正しいものの組合せを選びなさい。[No. 14]

- ① 麻しんは「解熱した後2日を経過するまで」である。
- ② 新型コロナウイルス感染症は「発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで」である。
- ③ 風しんは「発しんが消失した後、1日を経過するまで」である。
- ④ インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）は「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで」である。

ア ①② イ ①③ ウ ②③ エ ②④ オ ③④

第9問 目の健康について、問1、問2に答えなさい。

問1 次の表は、学校保健統計調査（文部科学省）の結果における「主な疾病・異常等の推移」の一部である。表中の数値は、疾病・異常の被患率を表したものである。区分ア～エにはそれぞれ、「鼻・副鼻腔疾患」、「耳疾患」、「むし歯（う歯）」、「裸眼視力1.0未満の者」のいずれかが当てはまる。「裸眼視力1.0未満の者」を示す区分をア～エから選びなさい。〔No. 15〕

表

		(%)			
区 分		ア	イ	ウ	エ
幼稚園	平成26年度	26.53	2.27	3.13	38.46
	30	26.68	2.31	2.91	35.10
	令和元	26.06	2.57	3.21	31.16
	2	27.90	1.97	2.38	30.34
	3	24.81	2.00	2.96	26.49
	4	24.95	2.36	3.03	24.93
	5	22.92	2.19	2.99	22.55
6	26.53	1.92	2.74	20.74	
小学校	平成26年度	30.16	5.70	12.31	52.54
	30	34.10	6.47	13.04	45.30
	令和元	34.57	6.32	11.81	44.82
	2	37.52	6.14	11.02	40.21
	3	36.87	6.76	11.87	39.04
	4	37.88	6.60	11.44	37.02
	5	37.79	6.28	12.38	34.81
6	36.84	6.28	12.10	32.89	
中学校	平成26年度	53.04	4.00	11.21	42.37
	30	56.04	4.72	10.99	35.41
	令和元	57.47	4.71	12.10	34.00
	2	58.29	5.01	10.21	32.16
	3	60.66	4.89	10.06	30.38
	4	61.23	4.76	10.70	28.24
	5	60.93	4.87	10.48	27.95
6	60.61	4.78	10.55	26.50	
高等学校	平成26年度	62.89	2.05	8.72	53.08
	30	67.23	2.45	9.85	45.36
	令和元	67.64	2.87	9.92	43.68
	2	63.17	2.47	6.88	41.66
	3	70.81	2.51	8.81	39.77
	4	71.56	2.25	8.51	38.30
	5	67.80	2.63	7.60	36.38
6	71.06	2.62	7.91	34.70	

※ 令和2年度から令和5年度の数値については、いずれの項目も調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、他の年度の数値と比較はできない。

問2 「子供たちの目を守るために～知っておきたい近視の知識～」(文部科学省)に示されている内容について説明したa～cの文の正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。[No. 16]

- a 近視は、遺伝的要因と環境要因の両方が関係すると言われているが、近年の近視の増加は、遺伝による影響が大きいと考えられている。
- b 日中に屋外で過ごす時間が多い子どもは、近視を発症しにくく、近視の進行も少ないことや、近視かどうかに関わらず、近視予防のために1日2時間は屋外で過ごすことが分かっている。
- c 近い所を見る作業(近業)が増えると、近視になりやすいことが分かっているため、読書やタブレット使用などの近業を行う際は、「対象から20cm以上、目を離す」、「1時間に1回は、20秒以上、目を休める」などに気をつける。

	a	b	c
ア	正	正	誤
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	誤
オ	誤	誤	正

kyosai-guild.jp

第10問 「健康づくりのための睡眠ガイド2023」（健康づくりのための睡眠指針の改訂に関する検討会）に示されている内容について説明したa～cの文の正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。

[No. 17]

- a 思春期が始まる頃から睡眠・覚醒リズムが後退し、睡眠の導入に関わるホルモン（メラトニン）の分泌開始時刻が遅れることで、夜寝る時刻が遅くなり、朝起きるのが難しくなる傾向がみられる。
- b 小学生は8～10時間、中学・高校生は6時間以上を参考に、睡眠時間を確保することが推奨されている。
- c 小学生から高校生にかけては、1日当たり60分以上体を動かし、スクリーンタイム（テレビ視聴やゲーム・スマホ利用など）は2時間以下にすることが推奨されている。

	a	b	c
ア	正	正	誤
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	正
オ	誤	誤	正

第11問 保健教育について、問1、問2に答えなさい。

問1 次の文は、小学校学習指導要領解説（平成29年7月）「体育編」における「心の健康」の「ア 知識及び技能」の一部である。空欄①～③に当てはまる語句の組合せとして、正しいものを選びなさい。[No. 18]

(ア) 心の発達

心は人との関わり、あるいは自然とのふれあいなど様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することを理解できるようにする。その際、① 関わりを中心として取り扱うようにし、心が発達することによって、自己の感情をコントロールしたり、② を理解したりすることができるようになることにも触れるようにする。また、自己の気持ちを上手に伝えるなど、よりよいコミュニケーションが大切であることにも触れるようにする。

(イ) (略)

(ウ) 不安や悩みへの対処

不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり、そうした場合には、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることを理解できるようにする。その際、自己の心に不安や悩みがあるという状態に気付くことや不安や悩みに対処するために様々な経験をすることは、心の発達のために大切であることにも触れるようにする。

不安や悩みへの対処として、③ や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができるようにする。

	①	②	③
ア	家族、友達、地域の人々など人との	相手の気持ち	体ほぐしの運動
イ	家族、友達、地域の人々など人との	相手の気持ち	生活を見直すこと
ウ	家族、友達、地域の人々など人との	他人の立場	体ほぐしの運動
エ	人や社会との様々な	相手の気持ち	体ほぐしの運動
オ	人や社会との様々な	他人の立場	生活を見直すこと

問2 次の文は、高等学校学習指導要領解説（平成30年7月）「保健体育編 体育編」における「現代社会と健康」の「ア 知識」の一部である。空欄①～③に当てはまる語句の組合せとして、正しいものを選びなさい。
[No. 19]

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、①、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず②などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

また、生活習慣病などの③には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

	①	②	③
ア	肺炎	細菌やウイルスの感染	早期発見と治療
イ	肺炎	遺伝	予防と回復
ウ	脳血管疾患	細菌やウイルスの感染	予防と回復
エ	脳血管疾患	細菌やウイルスの感染	早期発見と治療
オ	脳血管疾患	遺伝	早期発見と治療

第12問 「HOKKAIDO不登校対策プラン」（令和6年3月 北海道教育委員会）に示されている内容について説明したa～cの文の最も適当な正誤の組合せとして、正しいものを選びなさい。[No. 20]

a 不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。

b 不登校対策として、学校の風土を「見える化」し、学校を「みんなが安心して学べる」場所にするため、学校は社会の変化等を踏まえ、児童生徒が主体的に参画した校則等の見直しを推進する。

c 不登校の児童生徒が学びたいと思った際に多様な学びにつながるができるよう、学校は、1人1台端末を活用したオンライン授業の配信や学習教材の提供などによる学習支援体制を整備する。

	a	b	c
ア	正	正	正
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	誤
オ	誤	誤	正

正答及び配点

令和8年度（2026年度） 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査

受検区分	教科
養護教諭	

問題番号		正答	配点（点）	問題番号		正答	配点（点）
第1問	No.1	ア	5	第8問	No.13	オ	5
	No.2	ウ	5		No.14	エ	5
第3問	No.3	エ	5	第9問	No.15	ア	5
第4問	No.4	ア	5		No.16	エ	5
	No.5	エ	5	第10問	No.17	イ	5
	No.6	イ	5	第11問	No.18	ア	5
第5問	No.7	イ	5		No.19	ウ	5
	No.8	ウ	5	第12問	No.20	ア	5
第6問	No.9	ウ	5				
第7問	No.10	ア	5				
	No.11	ウ	5				
	No.12	エ	5				